Section 06 マニュアル撮影（M）

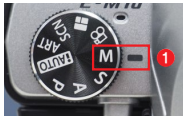
Keyword 長時間露光 / BULB / LIVE TIME / ライブコンポジット

マニュアル撮影は、撮影者が絞り値とシャッター速度を決める撮影モード。明るさ、動き、ぼけなどを自由にコントロールできる反面、使いこなすにはある程度の知識が必要なので、上級者向きといえる撮影モードだ。

1 マニュアル撮影とは？

カメラが自動で露出を決定してくれるP、A、Sモードに対して、マニュアル撮影は、絞り値とシャッター速度ともに撮影者が自由に設定し、露出をコントロールすることができる。シャッターを1分以上開く長時間露光も可能だ。

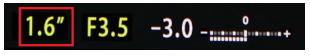
2 マニュアル撮影のシャッター速度と絞り値の設定方法



モードダイヤルをMに設定すると、絞り値とシャッター速度が黄色になる。リアダイヤルでシャッター速度、フロントダイヤルで絞り値を設定する。

フロントダイヤルを❷のほうに回すと絞り値が小さくなる。

フロントダイヤルを❸のほうに回すと絞り値が大きくなる。



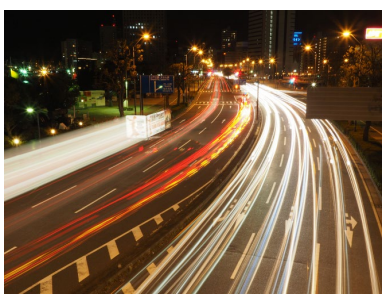
リアダイヤルを❹のほうに回すとシャッター速度が遅くなる。

リアダイヤルを❺のほうに回すとシャッター速度が速くなる。

3 BULB撮影とLIVE TIME撮影

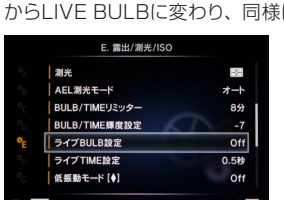
マニュアル撮影でシャッター速度を60秒（60"）より遅く設定しようとすると、**BULB、LIVE TIME、LIVECOMP（→P48）**の順で表示される。BULBはシャッターボタンを全押ししている間シャッターが開き露光を続け、放すと閉じる。LIVE TIMEは一度シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いて露光し、もう一度押すと閉じる。初期設定では8分で、最大30分まで開けることができる。BULBは夜景や花火など30秒ぐらいの撮影に向いており、LIVE TIMEでは光の少ない場所や星の軌跡の撮影におすすめ。**ぶれを防ぐために三脚でカメラを固定し、リモートケーブルやスマートフォンを利用したワイヤレスレリーズ（→P171）を使おう。**

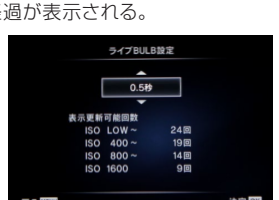
BULB 撮影



ONE POINT 露光の途中経過が見える、LIVE TIME、LIVE BULB

LIVE TIMEでは、撮影中の被写体の状態をモニターに表示して、露光の途中経過を確認できる。設定した間隔、回数で表示が更新される。また、BULB撮影中に露光の状態をモニターに表示したい場合は、メニューの［カスタムメニュー］の中の［E 露出/測光/ISO］－［ライブBULB設定］で、モニター表示の更新間隔を設定する。すると、撮影画面の表示がBULBからLIVE BULBに変わり、同様に途中経過が表示される。





Section 03 アートフィルターの操作

Keyword アートフィルター / 詳細設定 / アートフィルターブラケット

芸術的な写真表現がかんたんに楽しめるアートフィルター。E-M10では、**全12種類のアートフィルター**を利用することができ、さらに**タイプ、効果の追加**ができる。

1 アートフィルターの設定方法

モードダイヤルをARTに合わせる❶と、アートフィルターの選択画面が表示される。リアダイヤルでフィルターを選び❷、OKボタンを押す。

2 アートフィルターの詳細設定

ARTモードでの撮影時は、詳細設定ができる。標準仕上がりのタイプⅠと、フィルターによって変化をつけたタイプⅡ、Ⅲが選べる。フィルターに応じて効果も追加できる(→P85)。

アートフィルターの選択時に画面下部に[詳細▷]と表示されたら▷を押す。

タイプの変更

詳細画面で[タイプ]のアイコンを選択。▷を押して[Ⅰ][Ⅱ][Ⅲ]の適用したいタイプをリアダイヤルで選びOKボタンを押す。

効果の追加

詳細画面で▽を押して[効果の追加]アイコンを選択。▷を押して適用したい効果をリアダイヤルで選びOKボタンを押す。

アートフィルターの選択画面に、設定した[タイプ]と[効果の追加]のアイコンが表示される。

■ フィルターごとのタイプ例

タイプは、フィルターごとに色の違いや効果の強弱などがある。

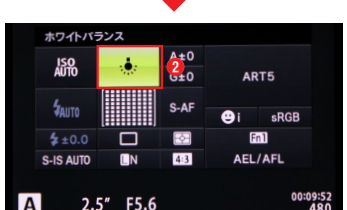
トイフォトⅠ	トイフォトⅡ	トイフォトⅢ

例えばトイフォトでは、タイプⅠはアンバー調。Ⅱはブルー調。Ⅲはマゼンタ調に仕上がる。

3 応用撮影モードでアートフィルターを設定する

応用撮影モードでは、スーパーコンパネのピクチャーモードからアートフィルターが設定できる。ARTモードのようにタイプなどの設定はできないが、P、A、S、Mモードのようにホワイトバランスやシャッター速度、絞り値などの変更ができる。

モードダイヤルをP、A、S、Mのいずれかに合わせる(ここではAに合わせた)。スーパーコンパネが表示された状態でOKボタンを押し、リアダイヤルでピクチャーモードを選び、フロントダイヤルでアートフィルター❶を選択。



応用撮影モードでは、アートフィルターを適用と同時にスーパーコンパネで他の撮影設定もかんたんに変更できる。リアダイヤルで別の機能を選び(ここではWB)❷、フロントダイヤルで種類を選択。撮影画面に戻り、シャッター速度や露出補正などを設定する。

Section 14 子どものいきいきとした表情を捉える

Keyword 高速シャッター / 連写H / 連写L

子どものいきいきとした表情を撮るときは、子どもにカメラの存在を意識させないことがポイントだ。ボールやシャボン玉など子どもが楽しめるものを用意して、レンズを向けられても顔が強ばらないように、望遠ズームレンズを使って少し離れた位置から撮影するとよい。動き回る子どもは、高速シャッターで確実に動きを止めて撮影しよう。

高速シャッターでシャッターチャンスを逃さず撮る

子どもは止まっていると思ったら急に動き出すなど、行動が予想できない。**シャッター速度を速めて**、被写体ぶれが起きないように確実に捉えよう。撮影モードをAモードにして、絞りを開放付近にすればシャッター速度が上がり、背景もふんわりぼけるのでおすすめだ。

カメラ設定						
撮影モード	A（絞り優先）	絞り	F1.8	シャッター速度	1/1250 秒
露出補正	＋ 1.3	ISO感度	200	WB	晴天
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL 25mm F1.8			焦点距離	25mm

1 変化に合わせて連写を設定する

子どもがシャボン玉に夢中になっている瞬間を撮影した。シャボン玉がたくさん出る瞬間を写したいが、動きが予測しにくいので、撮影間隔の短い**連写H**（→P153）でシャッターチャンスを確実に捉えた。ゆっくりとした動きのシーンでは**連写L**にするなど、被写体の動きに合わせて設定するとよい。

カメラ設定
撮影モード A（絞り優先）
絞り F1.8
シャッター速度 1/500秒
露出補正 +1.0
ISO感度 200　WB 曇天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL 45mm F1.8
焦点距離 45mm

2 かわいい部分をフレーミングする

子どもの小さな手だけを**フレーミング**した。全体を写した写真とは違った、やわらかな質感が伝わる1枚になった。標準ズームレンズでも望遠側で被写体に迫れば、小さな手をアップで写すことができる。

カメラ設定
撮影モード A（絞り優先）
絞り F5.6
シャッター速度 1/250秒
露出補正 +1.0
ISO感度 200　WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ
焦点距離 42mm

要点
- 高速シャッターでぶれないように撮る。
- 被写体の動きに合わせた連写速度を設定する。
- 一部分だけをフレーミングしていつもとは違った表現をする。